

第4回あきる野市自殺対策推進協議会次第

日 時 令和元年11月12日(火)
午後7時00分～
会 場 市役所5階 505会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) (仮称)あきる野市自殺対策推進計画(素案)について・・・資料1

【主な検討内容】

- ・素案の内容について
- ・評価指標について

(2) 自殺対策基本理念について・・・資料2

(3) (仮称)あきる野市自殺対策推進計画(素案)の概要版について・・・資料3

4 次回(第5回)の日程について

令和2年2月18日(火) 午後7時～
あきる野市役所4階 401会議室

5 閉 会

出席委員(10人)

会 長	植 田 宏 樹	副会長	石 井 雄 吉
委 員	山 崎 敦 子	委 員	山 田 修
委 員	曾 我 有 二	委 員	神 座 秀 夫
委 員	藤 森 文 子	委 員	金 子 桂 一
委 員	田 中 恵 子	委 員	清 水 康 雄

事務局

健康福祉部長	川久保 明	健康課長	鈴木 修
健康づくり係長	高水 洋輔	健康づくり係	山本 美夏

【議事要旨】

○協議会設置要綱第9条第2項の規定により、植田会長により議事の進行

(1) (仮称) あきる野市自殺対策推進計画(素案)について

※資料1に基づき事務局より説明

〔質疑〕(□は委員からの発言、質疑等。 ■は事務局からの発言、説明等。)

- 各委員のお手元に、両面刷りの素案へのコメントということでまとめたものを配布いただいているが、文言が一貫してないものとか、ちょっと分かりにくい表現とか、そういうものが幾つかあったので、事務局のほうで参考にし、修正されるかどうか検討していただきたい。
- 17 ページ「うつ状態が疑われる人」の3行目に、「全回答者の7.5%に当たる方にうつ病の可能性があるという結果になっています」とあるが、この簡易な質問調査で、うつ病の可能性と言い切るには根拠不足ではないかと思うので、「7.5%に当たる方にうつ状態、またはうつ病の可能性があるという結果」といった表現にされてはいいかがか。
- うつ状態の可能性があるっていうのはちょっと言い過ぎかもしれないので、表現のほうを考えていただきたい。
- 33 ページの両括弧3「市民への周知、啓発の充実」の丸1で「周知活動の充実」。これは重点施策となっているが、相談チャンネルの拡充とか周知だけではなくて、やはり相談への敷居を低くする必要があるのではないか。
- 分かっていてもなかなか言いづらい環境にあるので、相談しやすい、敷居を低くするというのは大事なことだと思う。
- 少なくともこのあきる野市の市の姿勢として、ウエルカムというのは変ですけども、気軽に相談に来れる環境を整えたいといった文言はやっぱり入れていただきたい。
- 地域自殺実態プロファイルでは、勤務経営、高齢者、生活困窮者の3つが挙げられているが、現状では各事業体の事業内容がどのテーマに結び付くのがこの見せ方では見えにくい。そこで、漠然とした努力目標だけではなく、あきる野市の課題にあった施策、事業内容を拡充していきますといったことをアピールされてはいいかがか。
- 24 ページ「現状、特徴など」の丸3、「自殺の原因、高齢者との関係」の「高齢者世帯への調査結果、健康や生活へに」の「へ」は取ったほうがいいかなと思う。
- 障害について、文言が開いてなかったり、開いてるところがあったりするんで、全部「が」にしたほうがいい。
- ゲートキーパーは「必要な専門機関につながるもの、役割が期待される門番となる」とあるが、「自殺の危険を示すサインに気付き、適切な対応を図ることができる人のことで、いわば「命の門番」と、「命の」を付けていただいたほうが分かる。
- 自殺予防週間とか、国がそういうことをやってるので、それを受けて市も、例えば指導室とかそういうところに入れていただけるといいと思う。
- うつのスケール、高齢者に対するうつ病と言い切るには根拠不足という指摘があったが、介護保険関係のチェックリストから持ってきたのか。
- うつに関しては健康増進法の計画のときの調査になるので、高齢者だけではなく20歳以上の方を抽出して出してるものになる。
- 高齢者のうつの状況と中高年のうつの状況と、やっぱり若い人のうつの状況って違うので、それを十把ひとからげにやるのはまずい。睡眠の状態も、青少年の睡眠の時間数と、それから中高年の睡眠の時間と、高齢者の睡眠の時間ってまた違うので、もうちょっと慎重にしたほうがいい。

- 26 ページの施策の体系図ってあるんですけど、重点施策のところと、重点施策じゃないところがはっきり分からない。色分けするとか考えてもらいたい。
- はっきりと分かるような形を検討させていただきたい。
- 26 ページで、基本施策と重点施策の関係性が不明瞭である。基本施策は全国的に自治体に取り組む、望ましい施策で4本決められて、その中に重点施策は入ってるっていう構成なのか。
- 基本施策で4本の柱にし、さらにその中で、基本施策に対してより影響を与えるようなものを重点施策としている。
- 結構、中がダブっており、あきる野市として重点的にやっていくものがちょっと見えづらいかなっていう気がする。基本はどこの自治体も4本なり5本の推奨。その中で市の特徴が出てくるのが重点施策の部分に入ってくると思うが、その関係性が被っていてよく分からない。
- ネットワーク網とあるが、ネットワークと網って同じではないか。
- 実は事務局でも検討し、おそらく「網」は取る形になるんじゃないかなとは思っている。
- 基本施策や重点施策は全て関連があるが、あえて分類すると4つの柱になって、10の柱になった。24、25ページのところに、現状、特徴等、あと、課題と方向性のところに矢印を、全体をこの矢印で包み込むようにしている。
- 基本施策というのはそもそもどういう定義がされてるのか、それから施策は、重点施策っていうのはそもそもどういう定義がされてるのかということが明確にされてるほうが混乱が少ないかなと思う。
- 各部署の事業内容の中に、それこそあきる野市の特徴を、幾つか要因を浮き彫りにしているので、この重点施策の中であきる野市にあった、こういった活動をやると表に出していただけると分かりやすい気がする。
- 基本の施策は全国で展開するのが望ましいよという部分でいわれているものであり、重点施策は各市、地域特性を持って、特色を出してということであるので、いま一度各課に聞確認したい。
- スキルという言葉が何回か出てくるが、スキルというと何か、イコール技術みたいな感じになる。あきる野市の職員として、やっぱりそういう自殺の予防の視点を持って対市民に接することができるように研修を行うとか、市民がまわりの人に気付いたりできる視点を持って、お互いに助けあいながらみたいな感じの、そんな柔らかい表現のほうがいいような気がする。技術を磨くのはなかなかしんどいかなと思う。
- 「自殺のリスクを踏まえた相談員のスキルの向上を図ります」っていう、そのスキルを具体的に書かないとちょっと分からないかもしれない。
- やはりこういう資料はどうしても曖昧とした表現の羅列で、例えば「SOSの出し方教育を推進します」とあるが、SOSの出し方はこの課の方たちが考えるのか。何か丸投げみたいになって、私がもし職員でここの担当だったら、「何すりゃいいの」みたいな感じで困るのかなと思う。
- 職員たちがこういう体制で動きますもちろん大事であるが、やはり当事者たちが読んで、困ったら自分がどう動いたらいいんだろうっていうのが少しでも考えつくようなものもセットでない。
- 評価指標について、例えば地域におけるネットワークの強化で、要保護児童対策協議会っていうことをやってないんだけど、やったらやったっていうこと、開催したら開催したっていうことか。
- 各協議体はそれぞれやっているが、自殺の視点を取り決めていただくところでは、現状未実施という形になっており、全てこれからとなっている。
- 各会議の中でも、本来の目的ではないかもしれないが、自殺っていうものに対してももう少し真剣に取り組んでいかなきゃいけないっていう周知を少しずつ擦り込んでいく。その事務局を

うまく使っていけるような、組織を使っていってもいいのかなと思っている。

□評価指標は、1番と2番と3番はちゃんと書いてあるが、4番は重点施策が2項目もあるにもかかわらず、あっさり終わっている。今度評価の協議会があったときに、どういうことなんだってことを言われる可能性があるのではないか。

■関係課とも少し考えさせていただきたいと思う。

□計画との整合性を持たせないと、高齢者でやってるところと自殺の関係が矛盾していたりとか、他の計画が、その計画と矛盾していたりするとまずいので、その整合性はちゃんと見とかなくちゃいけないのかなと思う。

■自殺の背景について追加資料を提出させていただいたが、当初より入れているこのライフリンクのものでいいのか、追加資料としてご提供させていただいた、この警視庁の自殺統計からできている厚生労働省作成のものがいいのか検討いただきたい。

□やはり平成30年度ってということなので、2013年度と比べると新しいので、平成30年のほうが何となく見た感じはいい。ただ、ライフリンクのも素晴らしいので、これが新しい、もっとはっきりしたものがもらえるかどうか。

■もらえなかった。

□あんまりぼけてるほうを出すよりは、ちゃんとしたものがいいかなというふうに思う。

□ライフリンクの資料は2013年ということで資料が古いかもしれませんが、具体的という点では分かりやすいかなと思う。

□ライフリンクは自殺であり、当日配布資料は自殺行動であるが、自殺行動と自殺っていうのはまたちょっと違う。行動は未遂も当然含まれるわけで。

□自殺行動だと1つ文字が増えるので煩雑になってしまう。自殺としっかり書いといたほうが分かりやすいかもしれない。

□図を改めてしみじみ見ると、やっぱりライフリンクのほうが複雑で一瞬、「何これ？」って見て、見づらさは感じるものの、でもやっぱりこうやってぐしゃぐしゃの中に取り込まれて、苦しみながら動けなくなって、死しか選べなくなっちゃったんだっていうのはちょっと胸に迫るものがある。

■このままということとしたい。

(2) 基本理念について

※資料2に基づき事務局より説明

(2) 自殺対策基本理念について

※資料2に基づき事務局より説明。

■案を4つ出させていただいている、全く変えていただいても、組みあわせていただいても全く問題なく、また、逆に委員さん方で違うもので全く新しいのを作っていただいても構わない。

□今のこの文字数は、今ここでは15文字分があるが、これは長いとこの中に入り切らないと思うが。

■他市では長いところもあればほんと短いところもあるので、文字に関しては縮小なりすればできる形になる。

□これはキャッチフレーズなのか。理念っていうと何か堅苦しく思うが、キャッチフレーズだったらと思う。また、あきる野市の子どもたちにキャッチフレーズを考えてもらいたいなのは、すごくできたら理想だなと思った。

□上位計画のあきる野市地域の保健福祉計画の理念との兼ねあいもある。

■地域保健福祉計画をちょうど今策定しているところであるが、基本理念については、「笑顔あ

ふれる安心して暮らせる保健福祉都市をめざして」という形になっている。

- 「心と命のサポートのために自殺者ゼロを目指して」とか。そういうゼロを目指してなんていう言葉を入れてもらうといい。「誰一人取り残されないあなたの温かいまち」だったら、例えばその後に「自殺者ゼロを目指して」とかいうのもちょっといいなと思う。
- 今まで素案が出て、このサブタイトルのようなものが市議会で却下っている例はあるのか。
- 協議会で審議をして、却下っているのはちょっと聞いたことがない。
- 議会に出すにはやっぱり理念が入ってないものは出せないのか。仮っているものは駄目なのか。
- 仮ではなく出してもらえればと思う。
- 「思いあい、つながりあい、支えあうまち、あきる野を目指して」。ちょっとあきる野市民じゃないものが出しているのかどうかっていう問題はすごく感じるが。あんまりストレートにきつく自殺って言葉も入れないほうがいいのかなと思う。
- もう最初にあきる野市自殺対策推進計画って入っている。だから、その次に来るっていえば、別にそういう柔らかい言葉でも全然構わないと思う。
- それぞれの言葉のイニシャルを取って、何かかっこよくイニシャルで略せると一番いいなと思ったが、それぞれの、例えば思いあいだから「O」、つながり「T」、支えで「S」ということになり、その辺のイニシャルをうまく語呂あわせ的に言いやすいような、そんなのも考えたが。
- 片仮名が入ってないのはいい。
- 足し算とか引き算とか、例えば「思いあい+つながりあい+支えあう=笑顔のまち あきる野」みたいな。子どもたちにも分かるかなっていう。

(3) (仮称) あきる野市自殺対策推進計画 (素案) の概要版について

※資料3に基づき事務局より説明。

- 自殺死亡率という言葉の注釈を下のほうに小さく入れてはいかがか。
- 一番最初に出てくる自殺死亡率の後に括弧で入れてある。
- 自殺死亡率という数値は、自治体の規模が小さいと大きく出てしまうという数値のようであるが、それを現状にあわせた修正というのはできないものなのか。
- 今どこの市町村もそのような形はとってないので、あきる野市においても、こういう形でやらせていただきたいと思う。
- この数値はあきる野市の場合はちょっと過大に見積もられてるってことか。
- 人口が10万以下だと大きく出てしまっていて、10万以上だと逆に少なくってというような感じに見える。だから、奥多摩、檜原はすごい高い。
- 非常に分かりやすくいいかなと思う。これを見るとすぐ理解がしやすい。課題があって、さらに取り組みを進めることによって、こういう目標値はこうですよって矢印もあれが全部できてるんで、これだと非常に一般の人とかから見ても分かりやすいかなっていうふう感じた。
- この概要版を見ると、概要版に矢印がきて、あきる野市の自殺対策理念が出てくるが、そうすると、課題の対策と方向性に準じたものじゃないと、ちょっとうまくあわないのではないか。

※自殺対策基本理念について

- 「思いあい、つながりあい、支えあう、笑顔あふれるまち、あきる野を目指して」。「支えあう」の次に「笑顔あふれる」っていうのをに入れてやったら。
- 自殺対策支援っていうのが暗いイメージなんで、笑顔が出ると明るくなりますよね、ちょっと。
- 課題と対策方向性の四角の枠組みの中のキーワードに、気付きあい、サポートしあう意識と、あとつながりあうっていう文言が出てくるので、そこから理念っていうところに持っていくと、やっぱり「気付きあい、つながりあい、支えあうあきる野市」っていうのは全部入ってる。や

っぱりこの課題と対策の方向性が基本理念になっていかないと、ちょっとずれ感が出てきてしまう。

- 全てのキーワードを満たしてるのが一番上（思いあい、つながりあい、支えあう、笑顔あふれるまち、あきる野を目指して）で、それが全部入ってる形だと思う。そうすると、あきる野市の課題と対策の方向性で、そういった気付きあい、つながりあい、支えあうあきる野市を目指していくんだなっていうのが、すんと落ちるような気がする。